

書評

[評者]
中西重清
中西内科院長



こんなときオスラー

『平静の心』を求めて

平島 修, 徳田安春, 山中克郎 著

● A5 頁200 2019年2月

定価：本体2,400円＋税

[ISBN978-4-260-03692-4]医学書院刊

私が書評を書くにふさわしい人間かどうかかわからないが、開業医の立場から解説する。ウィリアム・オスラーの『平静の心—オスラー博士講演集(Aequanimitas)』(医学書院, 2003)は名著であるが、難解である。精読したいと思うが、数ページで挫折してしまうのは私だけではないかもしれない。3人のオスラーイアン(オスラー伝道医師)が、わかりやすく実例を交えて解説し、臨床現場で平易に活用できる一冊としたのが、『こんなときオスラー『平静の心』を求めて』である。

8つの大きな見出し(「臨床上の葛藤—医師と患者のはざまで」「日々の勉学の中で」「教師と生徒」「進むべき道への迷い」「理想の医師像を求めて」「人生と平和と愛と」「付録」「オスラーの生涯と言葉」)で構成され、いつでも、どこからでも、気になったところから読める。臨床に悩んだときに探しやすい構図になっている。この厚さなら軽いので寝転んでも読めるし、急患が来た

ら、読み止めることもできる。もうあなたは、『平静の心』を仮眠用の枕にしなくてもよいのである。なんて斬新な試みだろう。

中身は、オスラーのクリニカルパールが満載である。教養を身につけ、医師としてだけでなく、人として成長せよ。病気が相手ではなく、人が相手である。医療は病になっている人を診ているのであって、病気を治すのが先ではない。可能であれば、医学教育にも携わりなさい。著者の心の豊かさと深さ、厳しさが随所に垣間見える。オスラーにはなれないけれど、オスラーの心を知り、わが身の姿勢を正すことはできそうである。

『こんなときオスラー』というタイトルではあるが、いつも側に置いて欲しい、「どんなときもオスラー」と一緒にいて、貴方に語りかけてくるだろう。ひょっとすると、貴方の医師人生を変える書籍かもしれない。